

第155回教育研究評議会議事要録

日 時 平成30年2月19日（月）14時05分から15時19分まで
場 所 本部棟5階 大会議室
陪 席 千家監事
欠席者 藤田理事，法文学部長

- ・第154回教育研究評議会議事要録について議決された。

議 題1．島根大学オープンアクセス方針の策定について

秋重理事から，資料1により，島根大学オープンアクセス方針の策定について説明があり，原案どおり議決された。

議 題2．学生の無期停学解除について

荒瀬理事から，資料2により，無期停学処分となっている総合理工学部の学生について概要が説明された後，総合理工学研究科長から詳細の説明があった。

無期停学解除の条件について審議があり，申し出どおり無期停学を解除することが議決された。

協議事項1．地域未来協創本部（仮称）について

秋重理事から，資料3により，地域未来協創本部（仮称）について説明があり，評議員からは次の意見が出された。

- 大学発ベンチャーの観点からみると，知的財産教育やアントレプレナー教育を行うための人材の確保や，地域の要望に副った実践的なMOT教育が，現在の体制案では十分に行うことができないのではないか。
- 十数年にわたり産学連携センターが大学の窓口として企業や行政に働きかけ，ようやく浸透し始めた時期に組織改編が行われるため，これまで築き上げてきた関係が崩されることのないように配慮する必要がある。
- タスク関係図には，地域未来協創本部と各機構や学部等との「連携」とだけ簡潔に図示してあるが，全学的に取り組むべきことであるため，この関係性を掘り下げ，より詳細に明記する必要がある。
- タスク関係図における「プロデューサー」の役割や担当理事との関わりについて，現在の図では分かりづらいのではないか。
- 地域未来協創本部の主な役割である地域との窓口の役割において，タスク関係図には「じげおこしプロジェクト」の場合のみ記載されており，地域社会からの要望等への対応が分かりづらいのではないか。
- 地域人材育成ユニットと産業未来開発ユニット，学部と機構とが密接な関係を築いていくためにも，プロデューサーには，両者の橋渡しができるような人材が求められるのではないか。

また、プロデューサーにおける重要な役割として、地域コーディネーターや地域等と密接につながり、大学とのパイプ役になることが必要ではないか。

- 各学部・研究科については、地域との連携がうまくとれていないのが現状であり、地域未来協創本部を窓口として、各学部・研究科が地域と密接に連携することのできる仕組みを作る必要があるのではないか。
- タスク関係図において、教員や学生の立ち位置が明記されておらず、それぞれの役割が分からない。

この件についての意見は、各学部で意見集約を行ったのち、1週間以内に地域連携・研究協力課に提出することとした。

報告事項

学長から、報告事項については、「会議の効率的な開催について（申し合わせ）」に基づき特に説明が必要な事項について報告する旨の説明があり、以下について報告があった。

報告事項2「情報セキュリティ診断の実施について」及び報告事項3「情報セキュリティ講習(eラーニング)の受講状況について」は関連性が高いことから、秋重理事から、資料5及び資料6により、同時に報告があった。

報告事項4「附属図書館における情報セキュリティインシデントに対する対応結果について」は秋重理事及び附属図書館長から、資料7により説明があり、平成30年1月11日をもって附属図書館のホームページを大学全体で運営しているCMSに移行したこと、及び平成30年1月12日の報告以降、文部科学省からの追加調査及び報告等の依頼はないことの報告があった。

報告事項5「平成30年度入試の志願状況について」は荒瀬理事から、資料8により報告があった。

報告事項6「平成30年度個別学力試験の実施について」は荒瀬理事から、資料9により報告があった。

報告事項7「平成31年度入試問題の作成について」は荒瀬理事から、資料10により報告があった。

報告事項8「平成30年度教育研究評議会の開催日について」は総務部長から、資料11により報告があった。